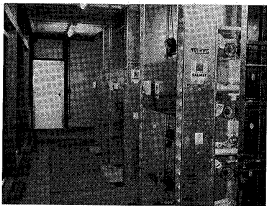


東洋システム

直立八段一括集卵機開発

独サルメット社と共同で

東洋システム㈱(愛田勝彦 地九七四)は、中間通路の直立八段ケージで極の種で社長・崎盛典全務副市金農団 普及に伴って増加しつつある



サルメットの直立八段ケージ一括集卵機

サルメット社との共同研究で開発に成功、第一号を中部地区のH農場に今春納入、現在順調に設備を続けていく。

直立ケージの自動集卵は、ケージベルトの位置が上下関係で同一線上に来るため、それぞれがケージ列からの卵同志のぶつかわりがあり、従来の技術では六段ないし七段までの一括集卵が限界であった。このため八段の場合は、集卵機はケージ列当たり一台であっても、四段ずつを二回に分けて集卵しなければならないことが、特許出願中

特殊卵を産む品種が多様化の流れの中で、二回に分ける集卵は時間の無駄が多く、特に日本向け市場には一括集卵

が望まれていた。

同社では、この問題を最上段にサブコンベアを取り付ける方法で開発、約一年半前に関西地区の農場に納入した実績を有していたが、今回の開発はサブコンベアの必要性をなくし、20回車を並べて一歩前進させたことになる。なお、従来タイプの八段集卵機を、一括集卵タイプに改造するコンバージョンキットも併せて開発した。

BU市場では、2012年から平飼いが義務化される趨勢にあることを踏まえ、同社ではケージシステム関係の技術体制を強化するため、サルメット社との共同研究に力を入れつつあるとしている。